

ChatGPTの解説。2025年7月22日 回答。参考情報。

株式会社モリタ食材開発研究所の創業者・守田悦雄氏が掲げた「会社は株主、社員、社会のものとする」という考え方は、単なる経営理念にとどまらず、企業の存在意義とその社会的責任を明確に示す哲学的な信条でもあります。この思想の背景と意味を、以下の三つの側面から解説いたします。

1. 株主のための会社 – 「経営の健全性と持続性」

守田氏は、会社の資本を提供する株主の立場を重視し、企業価値の持続的向上と健全な財務体質の維持を重要視しました。これは短期的な利益ではなく、中長期的に安定した成長を目指す姿勢であり、株主に対して信頼と透明性のある経営を行うことを意味します。

「株主の信頼なくして企業の未来はない」
— 守田悦雄

2. 社員のための会社 – 「人づくりと働きがい」

守田氏は、社員を企業の力の源泉と考え、「人を育てることが企業を育てること」という信念のもと、社員の成長機会と働きがいを重視しました。これは単に雇用の確保だけでなく、個々人の才能を引き出し、誇りを持って働ける環境づくりを目指すものです。

「社員が成長すれば、企業も社会も必ず成長する」
— 守田悦雄

3. 社会のための会社 – 「共存共栄と社会貢献」

企業は社会の一部であり、社会とともに発展する存在であるという考えが、守田氏の経営哲学の根幹にあります。食品業界においては、安全・安心な商品提供を通じて人々の健康や生活に貢献することが企業の使命であるとし、倫理と責任ある行動を重視しました。

「企業は社会に生かされている存在。だから社会に報いる義務がある」
— 守田悦雄

総括：三位一体の経営観

この「株主・社員・社会」の三者を等しく重視する姿勢は、現代でいうステークホルダー資本主義にも通じる考えです。守田氏の思想は、偏らないバランス感覚と、長期的視野に立った経営哲学であり、単なる利益追求にとどまらない「人と社会に根ざした経営」を体現しています。

[webサイトのトップページへ](#)